

古文書を読む会学習記録

作成日 平成30年 7月28日

開催日	平成30年 7月26日	時 間	10:00~12:00
場 所	金沢区役所リハーサル室	受 講 者	14名
講 師	真田 雅行氏	作 成 者	伊達 一雄
テーマ	第二学習 艱難実録(函館戦争)(中)⑪		
概 要	<p>仙台領折之波より諸兵隊が全て艦船に乗り込む。艦名は開陽、回天、幡龍、千代田長鯨、大江、鳳凰、人数大凡兵隊三千人も可有之哉と記されている。</p> <p>一 宮古を出帆四日目二而、蝦夷地鷲木村沖江着致候 遂に蝦夷地鷲木村（現在の茅部郡森町鷲ノ木町）に到着した。蝦夷は何もないと聞いていたが、家も人も日本と変わらない。言語も却って奥州の片田舎よりも通じるし本陣もある。土人（土着の人）は多分、南部、秋田、庄内または仙台の産が多い。最初はないと言っていたが二三日経つと酒もあり、足袋や蠟燭も調えた。人情も実が有りよく世話をしてくれた。しかし十一月初めでも江戸にない寒気で、田畑はなく殆ど漁獵場で、富士山に似た駒ヶ嶽が三里ほど先に見えた。</p> <p>一 兵隊は二手に分かれて出発した。鷲木村より函館まで本道は十三里、海岸を廻ると二十余里もある。</p> <p>一 軍艦回天その他式艦程鷲木沖へ着き、三日目位に函館に向けて出帆した。</p> <p>一 開陽が帰り三公（桑名、唐津、松山各藩主）上陸し、本陣へ宿泊。 鷲木よりモロラン（室蘭）までの間に地名は忘れたが蝦夷人が多く住んでいた。</p> <p>一 主君勝清はじめ三公に対する榎本軍の扱いに筆者の不満が爆発する。 泉州（榎本武揚）らは三公について平人（普通の人）とは違うが、已後ハ先ツ平人通り万事心得、家来を召し使うことないよう簡便実用が足りたら宜しいのではないかと言われた。これでは将来を見届けたくて是まで付き添ってきた甲斐がない。他の二公の付き添いとも話したが、同意見であった。</p> <p>蝦夷地という寒冷の地で三公はじめ榎本軍も経験したことのない厳しい環境に置かれて苦労が続く。三公の処遇について行動を共にしてきた付き添いから不満が噴出するのは仕方がない。とはいうものの片やお殿様、片やこれから函館で新政府軍と一戦を交える榎本軍とでは現状認識などに齟齬を生じるのは避けがたい現実と言えよう。</p>		
次回予定	平成30年 8月 9日 10:00~12:00 於:区役所区民活動センター 第一学習 野嶋浦 鈴木家文書⑨		